君は「最後の晩餐」を知っているか⑵

布施 英利

（次の文章は、「最後の晩餐」に関する評論です。）

12 さらに注目してほしいのは、ここに描かれている室内の壁や天井だ。壁の※タピスリーや天井の格子模様を見てみよう。壁がだんだん狭くなって、タピスリーも奥にいくほど小さくなる。これが遠近法だ。レオナルドは、絵画の遠近法を探究し、それをこの絵で完成させた。この絵には、遠くのものは小さく見えるという、遠近法の原理が使われている。室内の空間を、遠くにいくにつれて小さく描くことで、部屋に奥行きが感じられるようになる。

13 遠近法には、さらに別の効果もある。壁のタピスリーや天井の格子など、奥に向かって狭まっていく線を延ばしていくと、その線は一つの点に集まる。これを遠近法の消失点というが、なんと、その点の位置が、キリストの額なのだ。これにより、絵を見る人の視線は自然とキリストに集まっていく。この絵の主人公は、キリスト。誰が見ても、そう思わせる効果がある。遠近法という絵画の技法が、そこに描かれた人物たちの物語を、ドラマチックに演出している。これは、描かれた絵が偶然そうなったということではない。レオナルドは、明らかに計算をしてこの絵を描いたのだ。その証拠に、キリストの右のこめかみには、くぎの穴の跡がある。このくぎから糸を張って、あちこちに延ばし、画面の構図を決めていったのだ。まるで設計図のような絵ともいえる。

14 また、レオナルドは、光の効果も緻密に計算していた。描かれた部屋の白い壁を見ると、右側には光が当たり、左側は影になっている。この壁画は食堂の壁に描かれているが、描かれた部屋の明暗は、食堂の窓から差し込む現実の光の方向と合致している。そのため、壁に描かれた部屋は、あたかも本物の食堂の延長にあるようにすら見える。

（12～14は教科書本文における形式段落番号を表します）

※タピスリー…壁掛けなどに用いられる織物。

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の「最後の晩餐」で用いられている描き方はどのような効果を生むか、それぞれ選びなさい。

① 室内の空間を、遠くにいくにつれて小さく描いている。

② 遠近法の消失点の位置が、キリストの額になるように描いている。

③ 描かれた部屋の明暗が、壁画のある食堂に差し込む現実の光の方向と合致するように描いている。

ア 絵画の主人公がキリストであると感じさせる。

イ 絵画の中の部屋に、奥行きがあるように感じさせる。

ウ 描かれた部屋が、本物の食堂の延長にあるように感じさせる。

①〔　　〕　②〔　　〕　③〔　　〕

(2) 筆者は、レオナルドが遠近法の技法を用いた証拠として、どのような事実を挙げているか。解答欄（かいとうらん）に当てはまる言葉を本文中から六字で書きぬきなさい。

描かれたキリストの右のこめかみに［　　　　　　］があること。

(3) 「最後の晩餐」の説明として適当なものを選びなさい。

ア キリストを中央に大きく描き、それ以外を小さく描くことで、絵の主人公がキリストであると感じさせている。

イ キリストの額に遠近法の消失点が位置するように描かれることで、人物たちの物語がドラマチックに演出されている。

ウ 遠近法の消失点に向かって延びていく線が、壁画のある食堂に差し込む現実の光の方向と合致するように描かれている。

〔　　〕